

# 社会民主党 愛媛県連合ニュース

## 社会新報

Social Democratic Party

2012年5月発行

社会民主党愛媛県連合  
〒790-0066 松山市宮田町8-6  
(えひめ社会文化会館2階)  
Tel: 089-941-6065  
Fax: 089-941-6079

発行: 村上 要  
編集: 中村 嘉孝・源田 竜也



大勢の議員の前で挨拶する逢坂・村上代表

### 村上代表のあいさつ

村上代表は「新しい年次にあたって、どのような初年で、ど

### 逢坂副代表のあいさつ

冒頭のあいさつで、逢坂副代表は「昨年3月11日、東日本大震災地震において、地震や津波による福島第一原発の水素爆発

## 第14回県連合定期大会を開催

### 今こそ社民党の存在が問われる

3月31日、東京第一ホテル松山にて、第14回愛媛県連合定期大会が開催されました。

### 代議員からの質問

代議員からは県連合に対し、

のような気持ちで臨むのかその気持ちを整理した上で代表選の立候補届を出させていただきました。新しい県議会の構成をめぐる議長選挙で、自民党以外の四党派、社民、公明、民主、維新の会が相談をしながら、今の自民党単独の県議会運営でいいのかという協議をいたしました。そして、そのことをこのまま認めるわけにはいかないと

このように、石川幹事長は「現行の制度では国会議員の3分の1の推薦、もしくは200人以上の党員の推薦がなければ立候補できないという制度になっており、理にかなってないと思う。3分の1の国会議員の推薦がないということは、国会議員が500人でも1000人でも

党首選挙や憲法集会、脱原発の取り組みなどについての意見が出されました。

## 社会民主党愛媛県連合2012年度役員任務分担

大会終了後の第1回常任幹事会より、以下の役員が県連合の組織役職を担当することとなりました。

役職	担当責任者	副担当者
組織部担当	石川 稔	岩城 泰基
市民運動担当	逢坂 節子	中村 嘉孝
農林水産部会担当	岡山 臣夫	宮嶋 真機
機関紙・広報担当	中村 嘉孝	源田 竜也
選挙対策担当	村上 要	大山 政司・石川 稔
財政担当	山岡 健一	源田 竜也
自治体議員担当	大山 政司	逢坂 節子
労働運動担当	石川 稔	中村 嘉孝
高齢者・OBG担当	浦川 幸雄	岡山 臣夫
女性運動担当	逢坂 節子	
青年運動担当	山岡 健一	源田 竜也
規約等検討担当	浦川 幸雄	岩城 泰基



代議員の質問に答える石川幹事長

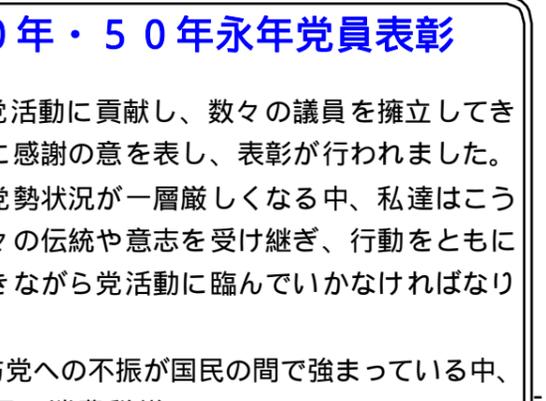
2人しか立候補できない。従って、現制度は現実的には合わない。この間の全国連合の大会においても意見が出ており、中央でもこれから実態に即した対応にしていきたいという答弁が重野幹事長から出ている。

また、中村副幹事長は「憲法集会については、超党派の取り組みとして、県民の皆さんにも

### 30年・50年永年党員表彰

長年党活動に貢献し、数々の議員を擁立してきた党員に感謝の意を表し、表彰が行われました。今後、党勢状況が一層厳しくなる中、私達はこうした方々の伝統や意志を受け継ぎ、行動をともにしていきながら党活動に臨んでいかなければなりません。

政権与党への不振が国民の間で強まっている中、憲法改正、消費税増税、原発問題など、課題が山積しています。こうした状況下で、我々社民党は何のために政治の場に立たされているのかを再度見直しながら、



を再度見直しながら、村上代表による永年党員の表彰が党員にできること、青年党員にできること、国民にPRしていかなければならないことを明確化し、行動に移す必要があります。そのヒントの一つとして、経験が豊富な先人の活動を見つめ直し、それを活かすことにあるのではないのでしょうか。

既存政党の政策が混沌としている中、大阪維新の会といった新風が勢力を上げつつある状況ですが、我々は常に社会的弱者の視点に立った政党であることを自覚し、社民党の提言を国民に粘り強く訴えていかなければなりません。

# 5・3憲法集会が開催される

5月3日、ひめぎんホールにて、「5・3えひめ憲法集会」が開催されました。会場内では、各労組や団体がバザーをしている姿や、大人が子どもと工作をしている姿が見られました。



集会には約1000人の参加者が見られた

心を持ち、学んでいくにあたり、この集会は貴重な場所の一つです。今日、日本では憲法9条も含め、政党レベルでの改憲論が本格化しつつあります。世論の間では改憲に対する意見は様々ですが、日本人が再び武器を持ち、再び戦前のような悲劇を繰り返さないためにも、9条改憲はなんとしても阻止しなければなりません。また、政治家だけの議論ではなく、国民全体を巻き込んだ議論を展開していかなくてはなりません。また、集会では戦争反対に加え、原発の再稼働反対の意見を訴える参加者も目立つようになりました。

原発事故は、スリーマイル事故やチェルノブイリ事故に続き、ここ日本でも、去年の3月11日、東日本大震災による福島第一原発事故が起きた。この事故により、多くの人が故郷や職を失い、中には自ら命を絶った人さえいます。そうした悲劇の歴史があり、

## 多くの人の思いが詰まったデモ行進

集会後のデモ行進は、多くの労組や団体を交えたものとなりました。昨年は不幸にも、悪天候のため中止となりましたが、今年は天候に恵まれ、無事決行されました。



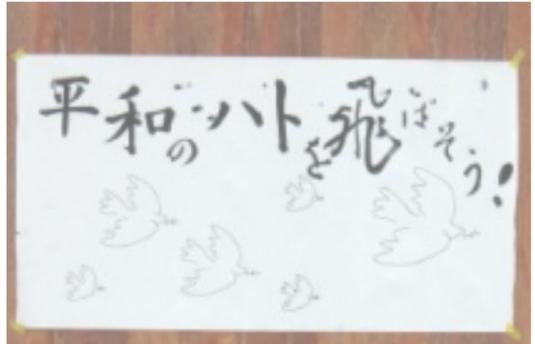
のぼり旗には、「原子力発電再稼働反対」、「看護職員の数を増やそう」、「脱原発1000万人署名」などが掲

げられており、一人一人の思いを抱いたシュプレヒコールが、街中に響き渡りました。「政権交代が騒がれる中で、一向に景気がよくなる兆しが見られない、福島第一原発により、故郷や職場を失いながらも避難生活を余儀なくされている」そうした人達の思いが、デモ行進に強く込められているような気がしてなりません。社会に対するそれぞれの思い



は一つであっても、政治について互いに語り合う機会がない今、こうした活動は貴重なものであると痛感しています。

来年も引き続き、デモ行進やシュプレヒコールを通じて、憲法を守り活かすことを一致団結して訴えていかなければなりません。



会場内に展示されていた平和の鳩の絵

また、福島第一原発事故の原因究明が明らかになっただけに、国は原発の再稼働を各自自治体に呼び掛けている。安全性に対する意見が党内や専門家の間でも揺らいでいる中、国民の多くが原発の再稼働に反対を訴えるようになっています。

「原発事故による悲劇を繰り返してはならない」「核と人類は共存できない」こうした思いや意見が集会で反映されるようになりました。そうした意味で5・3憲法集会はより一層、存在意義の高いものになっています。

5月3日はゴールデンウィークであり、旅行やレジャーなどの日程を組む人も多いことかと思えますが、同時に今の国民の生活を支えている憲法が誕生した日でもあります。

年に一度しか開催されないの5・3憲法集会は非常に貴重な場であると言えます。参加者は年配の方が多いのが現状ですが、将来世代に受け継いでいく若い人こそ、多く来ていただくべき場所です。こうした若い世代が次の世代へと憲法を語り継ぐことこそ、民主主義の本来の在り方ではないでしょうか。



集会には約1000人の参加者が見られた

## 2012年・風雪の碑慰霊祭

5月3日、日本社会党とともに長年労働運動や革新運動に貢献してこられた



先人に感謝の意を表し、12年風雪の碑慰霊祭が星岡町の風雪の碑建立地前にて開催されました。

労組・革新運動の尽力された先人の功績

冒頭で源田常幹は、「国民の原発再稼働に対する反対意見が強まっている。こうした国民の声に応えていくために党として今後も一層、再稼働反対を訴えていかなければならない。また、今まで憲法について学ぶ教育の場や機会が国民に提供されてこなかった。憲法について十分学んでいない中で、憲法改正に関わっていくことに危険を感じている。そうした中、社民党は憲法についての学びの場を提供しつつ、平和護憲を訴えていかなければならない」と開会挨拶をしました。

また、村上県連合代表は追悼の言葉で、「今日は風雪の碑が建立して26年目であり、戦後の政治・経済における中核の日として振り返る日にしあっている」と述べました。さらに、石水顧問は「野口さんがいないことに悲しみを覚えている。ここに来るたびに先人に会い、顔を合わせながら元気であることを確かめていた。」と述べました。



参加者一同での記念撮影

その後、先人達の思いを胸に革新運動に一層邁進することを参加者一同で誓ったうえで写真撮影をし、慰霊祭を終えました。

# 5・15 沖縄平和行進を体験して

5月11日から14日までの4日間、沖縄基地や県民大会、水族館等に行き、さらにはデモ行進を各労組や団体と共にすることができました。

戦時中の沖縄では、同じ日本人でありながら食糧の強奪や殺し合いがあり、あるいは助かるかもしれない命を捨ててまでして自ら身を投げ出すという悲惨な歴史がありました。また、戦後も沖縄の悲劇は終わったわけではありませ

ん。米軍飛行機の墜落により、罪もない多くの県民の命が奪われるという事件があり、さらには日米合意がなされているにも関わらず、騒音問題は

一向に解消されていません。こうした基地のために何億もの県民の税金が投入されていることに納得がえられません。得られません。米軍基地により、地域経済が潤っているという声を耳にしますが、その傍らで命や人権、豊かな自然



デモ行進には約1000人の参加者が見られた

が奪われていることを決して忘れてはなりません。5月13日には私もデモ行進に参加し、マイクを持ってのシュプレヒコールを初めて経験しました。体験することで、自分も沖縄のためにしているんだという充実感を得ることができました。

沖縄の基地問題は沖縄だけでなく、日本全土の問題であることを忘れてはなりません。毎年、沖縄での平和行進がありますが、参加者を増やし、全員が声を一つにして米軍基地の撤去や平和憲法を守ることを訴えていかなければなりません。(源田 竜也)